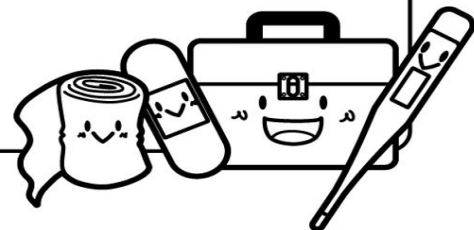




げんきのもと

岩美南小学校 保健だより
No.8 (H26. 10. 15)



視力検査をしました

10月10日は「目の愛護デー」でした。それにちなんで、視力検査をしました。検査の結果、「B」以下の人（視力0.7以下の人）に通知を配ります。明日、配布の予定です。

中には「春にも通知をもらったのに、またか。」と思われる方もあると思いますが、子どもの視力低下は進行が早いので、定期的に受診することはとても大切です。ステキなメガネを買ってもらっているのに、度が合っていない人もありました。この機会にぜひ、眼科を受診されることをお勧めします。

白黒だとよくわかりませんが、
このようなものを使う検査です。

色覚について

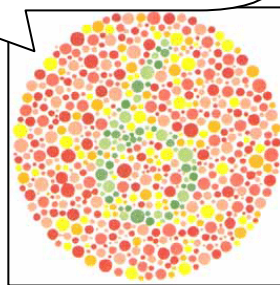
私が小学生のころ、教室で「色覚検査」というのをしていました。ほとんどの保護者の方も受けておられるはずです。覚えておられますか？

私たち人間は、色が放つ可視光線の波長の差を識別することで色を認識しています。そうした感覚について調べる検査が色覚検査です。

実はこの色覚検査、平成15年から健康診断の必須項目から削除され、希望者のみに個別に行われるようになり、現在、ほとんどの児童が検査を受けていません。

ところが、それから10年が経ち、自身の色覚の特性を知らないまま卒業を迎え、就職前に初めて色覚による就業規制に直面するといった事例が多く報告されているそうです。

先日、眼科の研修会に参加したときに、『色覚に係るエピソード』というものを紹介していただきました。下に載せていますので、ご覧ください。お心当たりがあれば、担任、もしくは養護教諭 松浦までご相談ください。



色覚に係るエピソード

- 黒板の赤いチョークを読み飛ばした。
- 「秋の葉の色」という課題で葉っぱを緑色に塗った。
- 絵を描くとき、色を確かめようとする。
- 理科のプリントで、草や花の色をうまく塗れない。
- 地図の色を問われてわからなかった。
- トマトの「熟した赤」と「熟してない緑」がわからない。
- 焼き肉で、焼けているか聞いてから食べる。
- ルービックキューブで色がわかりづらかった。

このような様子が見られないか、学校でも注意していきます。

色覚異常とは

病気や加齢等による後天的な場合もあるが、ほとんどが性染色体異常による先天的なもの。

色の識別が困難ではあるが、色がわからなかったり、世界が白黒に見えたりするわけではない。

出現率：男→1/20 人
女→1/500人